

本間義人著

『地域再生の条件』

紹介者：橋本 美由紀

本書は、近年、日本の地域社会が直面している財政的問題や雇用問題などをどのように解消し、地域を再生していくかを探ろうというものである。

地域はなぜ衰退したのか。それは、第一に国土計画の失敗と各種政策の誤謬にあり、急激な市場化がこれに拍車をかけた。ここでいう国土計画とは、1962年の第一次計画に始まり、1998年の第五次計画まで策定された全国総合開発計画（全総計画）を指す。この国土計画は日本の地域政策、都市政策、および各種公共事業計画の最上位計画と位置づけられ、都道府県計画、市町村計画につながり、また、2000もの法律と関連する重要なものであった。その目的は一貫して、国土が均衡ある発展を遂げるために、過密過疎・地域格差の解消、自然資源の有効活用、資本・労働・技術などの資源を適切に配分することに置かれ、そのための地域開発を行うこととされていた。しかし、これらは国と企業のための開発事業であって真に地域の開発には貢献しなかった。その後、2005年に全総計画は廃止されたが、日本中に残した負の遺産はあまりに大きなものであった。

国土計画やそれに導かれた地域政策の失敗もさることながら、地方の側の責任も大きいといえるだろう。すなわち、国が策定した計画・構

想に加われれば公共事業が割り当てられる、補助金がつく等の思惑から、それに参加してきたことである。しかし、そのような上からの計画では、住民重視の地域開発にはつながらないことが分かってきた。地域を真に再生させるにはどうしたらいいのか。どのような街づくりが目指されるのか。その具体例を各章で述べている。

本書の主要構成は以下ようになる。

第1章 なぜ、地域再生なのか

第2章 人権が保障された地域をつくる

第3章 地場産業で生活できる地域をつくる

第4章 自然と共生し、持続可能な地域をつくる

第5章 ヨコ並びでない地域をつくる

第6章 住民の意思で地域をつくる

第7章 地域再生に向けて

市町村自治体に求められていることは、新たに策定された国土形成計画に縛られることなく、それぞれの地域がそれぞれの方法で地域空間に関わることであり、地域空間は市町村自治体と地域の人々が協働して創りあげていくものだとして認識することである。

そして、著者が一つのありようとしてあげるのは「福祉の地域」の実現である。しかし、多くの市町村自治体が財政難に陥っており、果たしてそのような「福祉の地域」を目指せるのだろうかという疑問も同時にわいてくる。著者自身も高福祉の地域を実現していたかつての岩手県沢内村や秋田県鷹巣町を思いつつ、予断を許さない地域再生の動きを見ている。

本書は、地方の地域再生に焦点をあてて書かれているが、今後は「都市再生の条件」についても検討されることを期待したい。

（本間義人著『地域再生の条件』岩波書店、2007年1月、xiv+222頁、定価740円+税）

（はしもと・みゆき 法政大学大学院社会科学研究所
博士課程、大原社会問題研究所兼任研究員）